

太陽のエネルギーを取り込み、気持ちよくやり抜こう

いよいよ夏本番。コロナ禍のため、3密を避け、マスクを着用し、息苦しく、息の詰まるような生活が余儀なくされています。しかし、太陽はいつもと変わらず燦燦と照り付けています。太陽の光を全身に浴びて、そのエネルギーを取り込み、活力を取り戻していきたいと思えます。

生徒の皆さんは、休校中のブランクを取り戻そうと、活気ある学校生活を送っています。これまでの学習の遅れを取り戻すために、文化祭などの行事の中止や延期、夏休みの短縮などにより授業日を確保しました。生徒の皆さんにとって、楽しみであることが中止や、見直さざるを得ない状況です。学びの保障は皆さんの将来に係る大切なことです。与えられた環境で、最善を尽くしてやり抜いてほしいと思えます。

さて、梅雨の時期でもあり、コロナ禍のなかでもあり、太陽光を全身で浴びて、思い切り汗をかいてということが、通常よりは少なくなっているのではないのでしょうか。私は、週に1度は8kmのジョギングをしています。土日が空いていないときはできませんが、汗を思い切りかいて、きれいな空気をいっぱい吸って、太陽の光を浴びてゆったり走る小一時間のジョギングがなんとも心地いいです。実は若いころ私は長い距離を走ることが苦手で大嫌いでした。当時、ラグビーの練習などで指示

されての長距離走は、やる前から嫌だなと思ってやっていました。気持ちいいとか、楽しいと思ったことなどほとんどありません。

当時は速さが求められたり、距離を指定されたり、当然自分で決めて行うものではありませんでした。ただただ苦しい、きついという思いだけだったような気がします。でも、今は時間があれば走りたいし、景色を見ながら、自然の風を感じて、長い距離を走ることが大好きです。ゆっくりゆっくり、走りたい距離を走りたように走っています。同じ長距離を走るということでも、やる前の心の持ちようや意識、やり方などによって、180度違ってくる。同じことをやるにも、

真逆の感じ方になるなんて、何か不思議です。

生徒の皆さん、もしかすると今あなたが嫌いだと思っていることが、数年後には好きなことになっているかもしれません。苦手だと思っていることが、得意になっているかもしれません。同じことをやるにしても、心の持ちようで何かが変わるかもしれません。何をやるにも、どうせやるなら気持ちよくやってみてほしいものです。



全国総文祭が中止になりました。出品予定だった3年生 横地 凛さんの作品です。昇降口に展示中です。

